



## 6月の園だより

学校法人志賀学園

松の実こども園

令和6年6月1日

初夏の風が、園庭に駆け抜け爽やかです。

畑に植えたじゃがいもが青々と成長し、薄紫色の花を咲かせる時期です。

先日、年長組の子どもたちで、さつま芋の苗植えに行ってきました。畑から戻ってくると、「バッタやカマキリを捕まえたよ」「てんとう虫が飛んでたのを見たよ」「カエルが泳いでた！」と口々に話していました。このように、作物の収穫だけでなく、いろいろな生き物や自然との触れ合いや発見があることが、畑の醍醐味でもあります。裸足になって、畑の脇に流れる側溝の水に入ったお友だちもいて「超！気持ちいい～」と歓声を上げたりしていました。

園庭のプールの脇に作った畑には、ブルーベリー、トマト、ナス、きゅうり、ピーマンの苗を植えました。「黄色いお花！」とぼら組さん。「紫のお花はナスみたいだね！」とすみれ組さん。

「僕たちが植えたお花の種と同じで、野菜の葉っぱの形もみんな違うね」とさくら組さん。それぞれの違いを感じながら、成長過程を観察し、ブルーベリージャムを作ったり、野菜を利用した食育活動にもつなげて参りたいと思います。

また、お部屋の前のグリーンカーテンの朝顔の花は、毎年色水遊びをしたり、種取りをしてご家庭に持ち帰り、次年の開花につながったりしているお子さんもいます。

さて、人の育ちを木に例えると、乳幼児期は根っこの部分。この時期の子どもたちは、知識を学ぶよりも、体を使い、五感で感じとり、自ら興味を見出し、探求心を広げていきます。乳幼児期に身につく力は、誰かに教えられるのではなく、遊びに没頭する中でこそ培われるものです。遊びを通して、**人・物・事**に関わり、子どもたちが自ら考え、行動できる保育、環境づくりをしていくことが大切です。子どもたちが大人になって過ごす時代は、AIが多くの仕事（作業）を人間に代わってこなす時代です。AIを駆使して人間が幸せに生きていくためには、人が自分で考え、協働し、行動していく力が今まで以上に求められるということです。その原動力となるのは、想像力、創意工夫や探究し表現する力、協調性や思いやり、意欲、粘り強さなど、「非認知能力」という数値では表すことのできない目には見えない力です。人間の根っこを育てる時期に、「非認知能力」の基礎が育まれると、その後に「認知能力」もしっかりと積み重なっていくということです。園では、自然環境や物的環境を整え、子どもたちが自ら遊びに取り組めるよう見守っていきたいと思います。

また、例年にも増して、暑さが厳しくなっておりますので、水分補給をしながら、適度な園庭での活動や、適切にエアコンを利用したホールやお部屋での充実を図って参ります。